

■7月22日

高松空港ビル、小松・能登空港ビルとパートナーシップ協定締結

(四国新聞によると)

高松空港旅客ターミナルビルを管理する高松空港ビル(香川県高松市香南町)は22日に、石川県の小松、能登両空港のターミナルビルを管理する2社とパートナーシップ協定を結ぶ。互いの空港を活用した物産販売や観光イベントなどで連携するほか、羽田空港経由での高松—石川間の航空便利用を促す。空港ビル間の協定締結は全国初という。

締結する2社は、小松空港を管理する北陸エアターミナルビルと、能登空港の同空港ターミナルビル。

(四国新聞)7/20

http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/locality/20130720000139 (-> http://www.shikoku-np.co.jp/kagawa_news/locality/20130720000139)

大韓航空、青森—仁川線、1-6月、訪日旅客、前年同期比7割増し

大韓航空の運航する青森—ソウル線は、今年1～6月の外国人利用客は9015人で、前年同期比7割の増となり、6月単月の搭乗率も70.4%と、10カ月ぶりに70%台に達したことが分かった。北海道新聞が報じた。

外国人利用客の利用増を押し上げる主要因は、円安ウオン高。韓国通貨ウオンは、昨年6月の100円＝1500ウオン台を底に上がり続け、12月には自民党政権の円安誘導政策を見越して一段と上昇。今月は100円＝1100ウオン台で推移している。

ツアー料金が値ごろとなり、日本への旅行がしやすくなったため、昨年は落ち込んでいた韓国側からの旅行客が回復した。青森—ソウル線の今年6月の外国人利用客数は1889人で、2011年10月の同線運航再開以降では月間最多。大韓航空によると、ゴルフや温泉をターゲットにした観光客が多いという。

これに対し、6月の日本人客数は706人(前年同月比64%減)にとどまり、日本人客・外国人客の割合はおおよそ「3対7」。1年前は「7対3」だっただけに、すっかり逆転している。

(北海道新聞)7/21

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/aomori/480604.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/aomori/480604.html>)

国交省、スイス、航空当局間協議

国交省は21日、日本とスイスとの航空当局間協議が、22日—24日にベルンで開催されると発表した。

路線、輸送力について協議する予定で、オープンスカイを念頭においた交渉になるようだ。なお、羽田空港の乗り入れ設定については、少なくとも昼間時間帯は実現の可能性が小さいと思われる。

(日刊航空)7/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(国交省 プレスリリース)7/19

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000212.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku03_hh_000212.html)

スターフライヤー、福岡—関空線、10月1日から就航

スターフライヤーはこのほど、中期計画で今年度中に開設するとしていた福岡—関西線について、10月1日から1日4往復で運航を開始することを決めた。

同社にとって、国内線4路線目、国際線をあわせて5路線目の路線開設となる。運賃等は月末にも発表する予定。

(日刊航空)7/22

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ユナイテッド航空、デンバー線、非常に好調、日本発—デンバーでの乗継8割

ユナイテッド航空が6月11日から運航開始した成田—デンバー線が好調だ。UA広報部によると、ロードファクターは明かされなかったものの、エコノミー、ビジネスクラスとも「基本的に非常に好調で、予想以上に利用者が多い」といい、全体的にほぼ満席の状況が続いているとした。トラベルビジョンが報じた。

利用者は、日本発の乗客、アジア発の乗客、アメリカ発の乗客がそれぞれ3分の1ずつの割合。成田—デンバーの往復よりも、両空港からのネットワークを生かした乗継需要が多く、成田発の場合は8割がデンバー—遠への乗継となっている。

(トラベルビジョン)7/21

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58328> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58328>)

ボーイング787関連：FAA、ELT点検を勧告

(日経によると)

米連邦航空局 (FAA) は19日、ロンドンの空港で起きたボーイング787の火災の原因とみられている航空機用救命無線機 (ELT) の配線やバッテリーの状態、損傷の有無などを点検するよう航空各社に勧告した。AP通信が報じた。

英運輸省の航空事故調査当局がFAAに求めたELTの使用停止に向けた措置には言及していない。ELTは事故時に救難信号を発信する装置。FAAは近く点検命令を出す方針としている。

米当局に登録されている全787が対象。FAAはボーイングと協議し、点検内容を決めたとしている。FAAの基準は航空業界のスタンダードといわれており、これに従って今後、各国の航空当局も同様の点検を各航空会社に促すとみられる。

APIによると、787のELTは全て米ハネウェル社製。同様のELTはこれまでに約6千個製造され、世界各地の航空機で使われているというが、点検の対象は787のみに限られている。

(日経)2/20

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM20019_Q3A720C1NNE000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGM20019_Q3A720C1NNE000/)

カタール航空、10月からクラーク—ドーハ線開設

クラーク国際空港を運営するクラーク国際空港公社 (CIAC) はこのほど、カタール航空が10月28日からクラーク—カタール (ドーハ) 便の運航を開始すると明らかにした。ビジネスミラーが伝えた。同社は既に、マニラ—ドーハ便を運航しており、10月1日からクラーク—ドバイ便の運航を開始する予定だ。

クラーク国際空港では今月時点でLCCのエアアジア・フィリピン、セブ・パシフィック、シーエア (タイガーエア・フィリピン)、ジンエアー、ドラゴン航空が乗り入れている。

クラーク国際空港の今年の利用者は、前年を約60万人上回り、200万人を突破するとの見通しだ。

(NNA ASIA)7/22

<http://news.nna.jp/free/news/20130722php007A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130722php007A.html>)